



会長退任のご挨拶

片倉 百樹 日本エレクトロヒートセンター 前会長

退任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

退任直前に、東日本大震災という未曾有の大災害がありました。被害を受けられた皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。

この震災により日本のものづくりは、大きな転換を余儀なくされました。これまでと、これからの不連続をいかにして克服すべきか、そのためにも、「電気をいかに有効に使うべきか」当センターには、今まさにこの万国共通の課題を訴えていく活動が期待されているのではないのでしょうか。

振り返りますと、旧日本電熱協会の平成13年より副会長を2期、平成17年より会長を3期と計5期10年に渡りに日本エレクトロヒートセンターの事業に携わらせていただきました。この間、当センターの活動は電力自由化の拡大と共に歩んで参りました。電熱協会から日本エレクトロヒートセンターへの法人化、高効率給湯器及び高効率空調機の導入支援事業の受託、業務用電化厨房機器登録制度の発足等、会員の皆様のご理解とご協力がなければ成し得なかったことであり、あらためて心より感謝申し上げます。

これより、香川新会長に日本エレクトロヒートセンターをお願いすることになりますが、社会全体でエネルギーを有効に使うことが求められ、当センターの果たす役割はますます重要となっていきます。世界規模で化石資源の価格の高騰が懸念されていますが、石油、天然ガス、石炭といった化石資源には限りがあります。富士山の体積を1,400 km³として換算すると、石油(1.3兆バレル)は富士山の1/7、天然ガス(液化換算:187兆m³)は1/5、石炭(8,260億トン)は1/2となります。現在確認されている、地球上の埋蔵量は、富士山1杯分に満たないものです。化石資源の有効活用がいかに重要であるか分かります。

耳慣れないことと思いますが、エネルギーの価値を表す指標として「エクセルギー」という概念があります。社会全体のエネルギーの使われ方をはかるものさしとして注目され始めました。エネルギーは実際に使えることのできる「有効分」と使うことのできない「無効分」があります。この「有効分」をエクセルギーと呼びます。エネルギー全体の量に対する有効エネルギーの比率がエクセルギー率で、この値が大きいほどエネルギーを有効に使えるということになり、電気はなんと100%です。持っているエネルギーの100%を仕事に変えることができます。この限りある化石資源を将来世代に残すためにも、あらためて電気の価値がクローズアップされることでしょう。

言うまでもなく、これまでも増して当センターの活動が社会から注目されることとなります。新会長のリーダーシップのもと、日本だけでなく世界のエレクトロヒートセンターとして飛躍することを祈念しています。旧倍のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後になりますが、10年間にわたるご支援に心より感謝申し上げますとともに、会員の皆様方のますますのご発展をお祈りして、私の退任のご挨拶とさせていただきます。長い間どうもありがとうございました。

(かたくら ももき) 東京電力株式会社 お客様本部